

街の結節点として照明環境を連続させるとともに、昼も夜も市民に開かれた新しい魅力的な光環境

高層・遠景：結節点としての夜間景観

- ① みなとみらい21地区や、北仲通地区と呼応する照明の演出
- ② 北仲通北地区と桜木町・野毛地区の二方向に向けたエコポイド照明

中層・中景：周辺的环境と調和する夜間景観

- ③ 開かれた市庁舎を象徴する屋根付き広場の間接照明
- ④ 行政と議会の機能の違いを表現した形態に沿う照明計画

低層・近景：歩く楽しさを感じられる夜間景観

- ⑤ 室内からもれる光による賑わいの創出
- ⑥ 水際の明るさを抑えることによって水面に映りこむ夜景の演出
- ⑦ 街角に配した広場にふりそそぐムーンライト
- ⑧ 足元の安全を確保し、水辺等へ人を導くフットライト

色

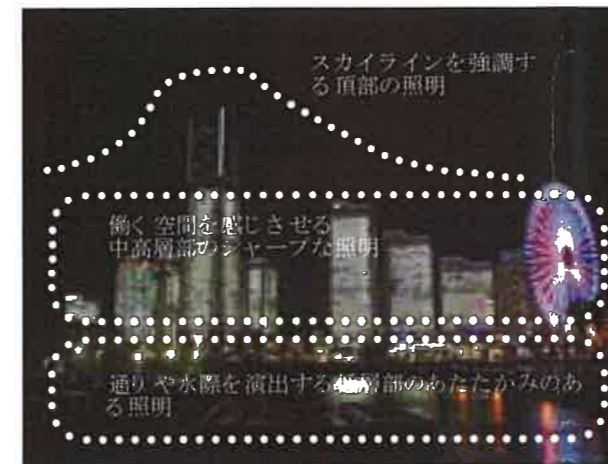
- ・ 低層部は暖かく親しみのある低い色温度を設定し、夜の賑わいを演出
- ・ 中高層部は働く空間を感じさせる高い色温度を設定し、周辺の建物にあわせた都市的な光環境を演出

形

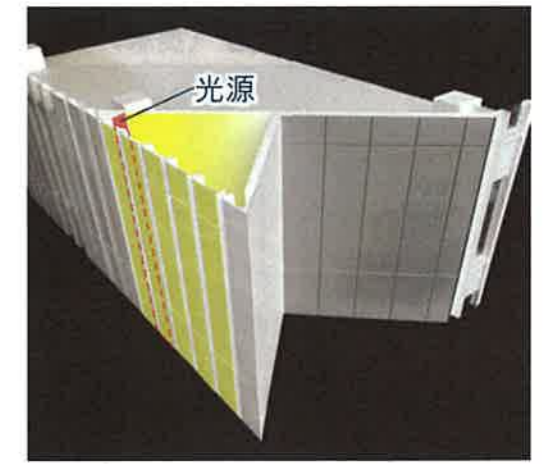
- ・ 低炭素型市庁舎の象徴となるエコポイドを利用した天に伸びる光の帯

変化

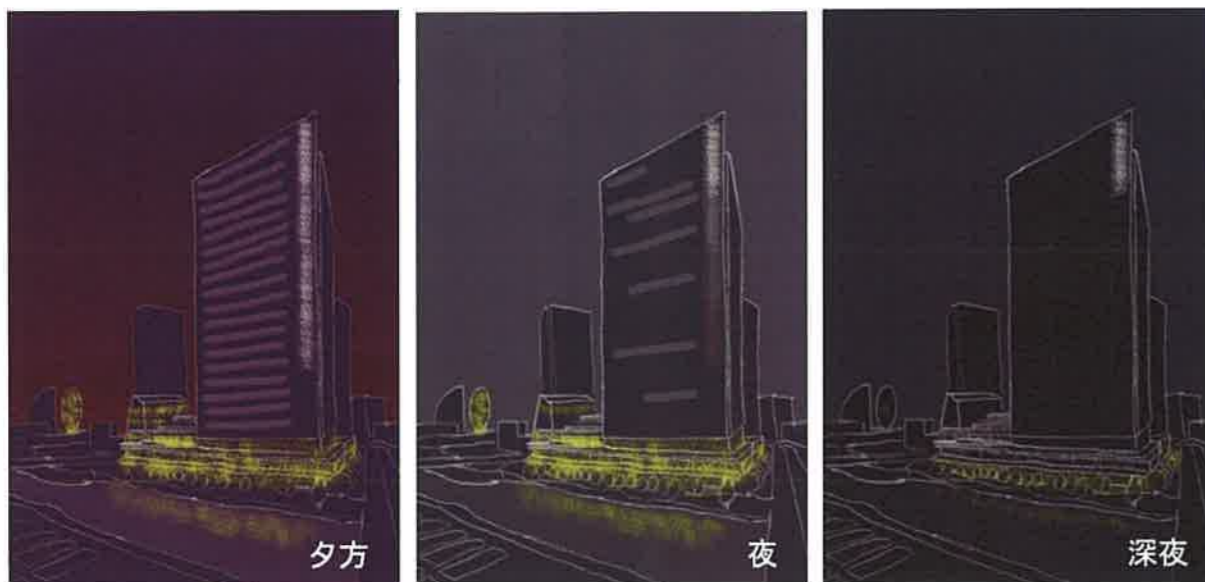
- ・ 各時間帯のアクティビティに合わせて変化するエコポイド照明と屋根付き広場の間接照明



①みなとみらい21地区のスカイラインの考え方



②エコポイド照明



アクティビティに合わせて変化する光環境



鳥瞰夜景パース

街の結節点として照明環境を連続させるとともに、昼も夜も市民に開かれた新しい魅力的な光環境

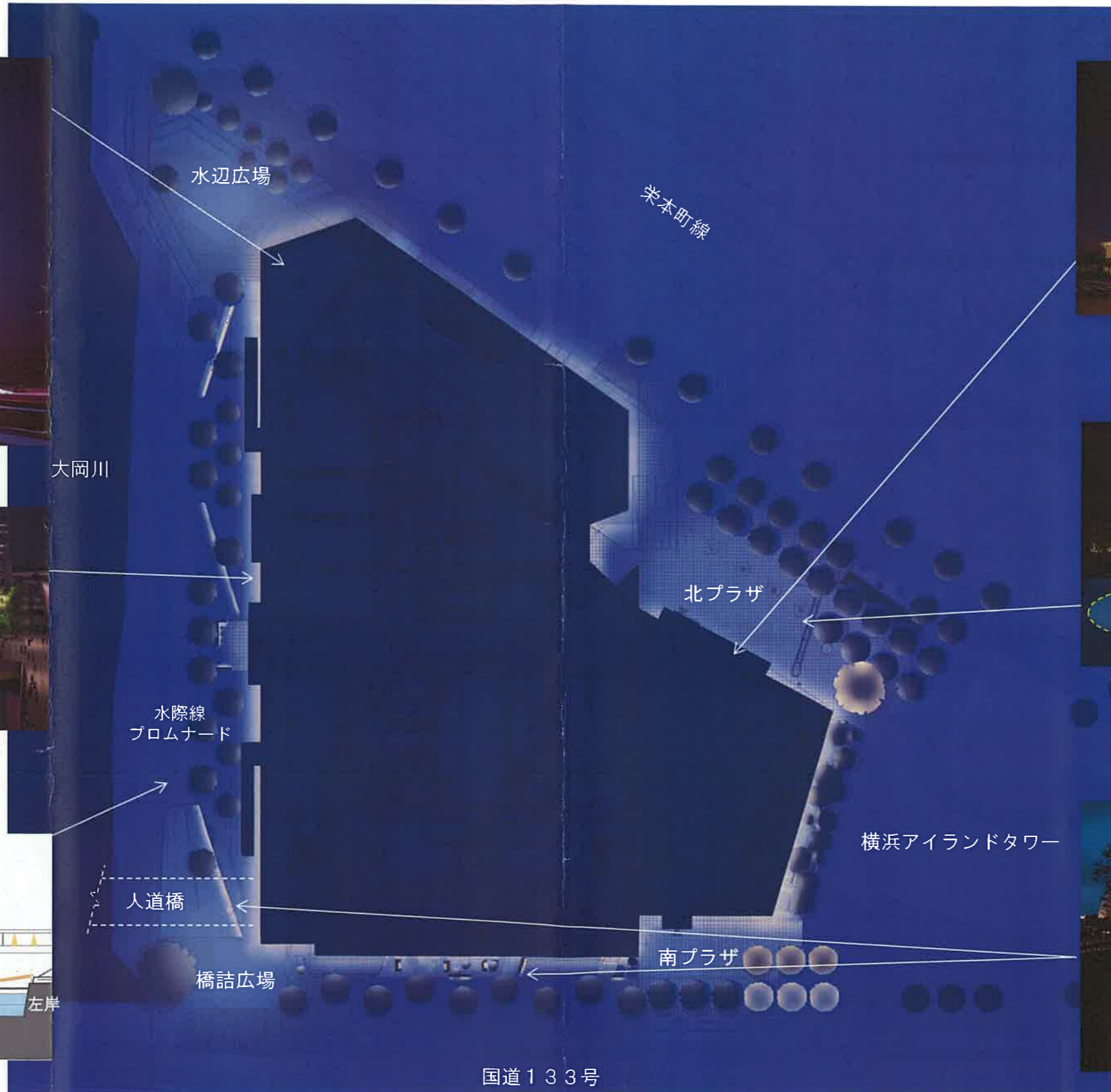
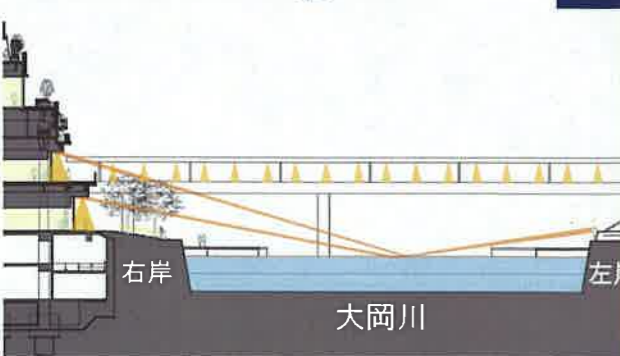
④ 行政と議会の機能の違いを表現した形態に沿った照明計画 (提案)



⑤ 室内から漏れる光による賑わいの創出



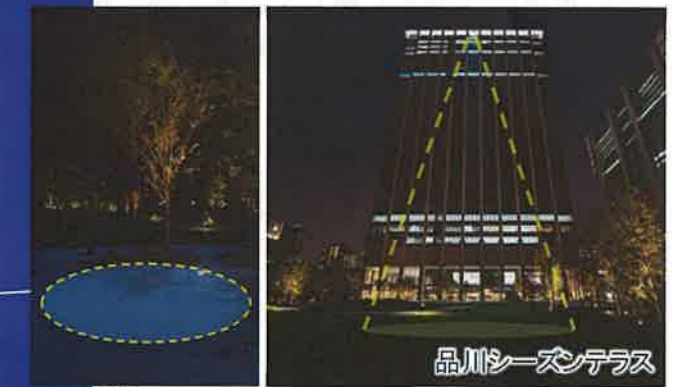
⑥ 水際の明るさを抑えることによって水面に映りこむ夜景の演出



③ 開かれた市庁舎を象徴する屋根付き広場の間接照明



⑦ 街角に配した広場にふりそそぐムーンライト (南・北プラザ、水辺広場、橋詰広場)



広場のアクティビティを阻害することなく照度を確保する

⑧ 足元の安全を確保し、水辺等へ人を導くフットライト



・水際線プロムナード及び2階デッキなど24時間通行可能な場所は、店舗の営業時間終了後、残置灯で10lx程度の照度を確保し、通行に支障のない計画とする。

・水辺広場、橋詰広場、北プラザの広場とシンボルツリーには、建物上部から投光し、満月程度の照度を確保する計画とする。



現況案

旧第一銀行

横浜アイランドタワー



開かれた市庁舎を象徴する屋根付き広場の照明計画



参考:ワールドトレードセンタータワー4



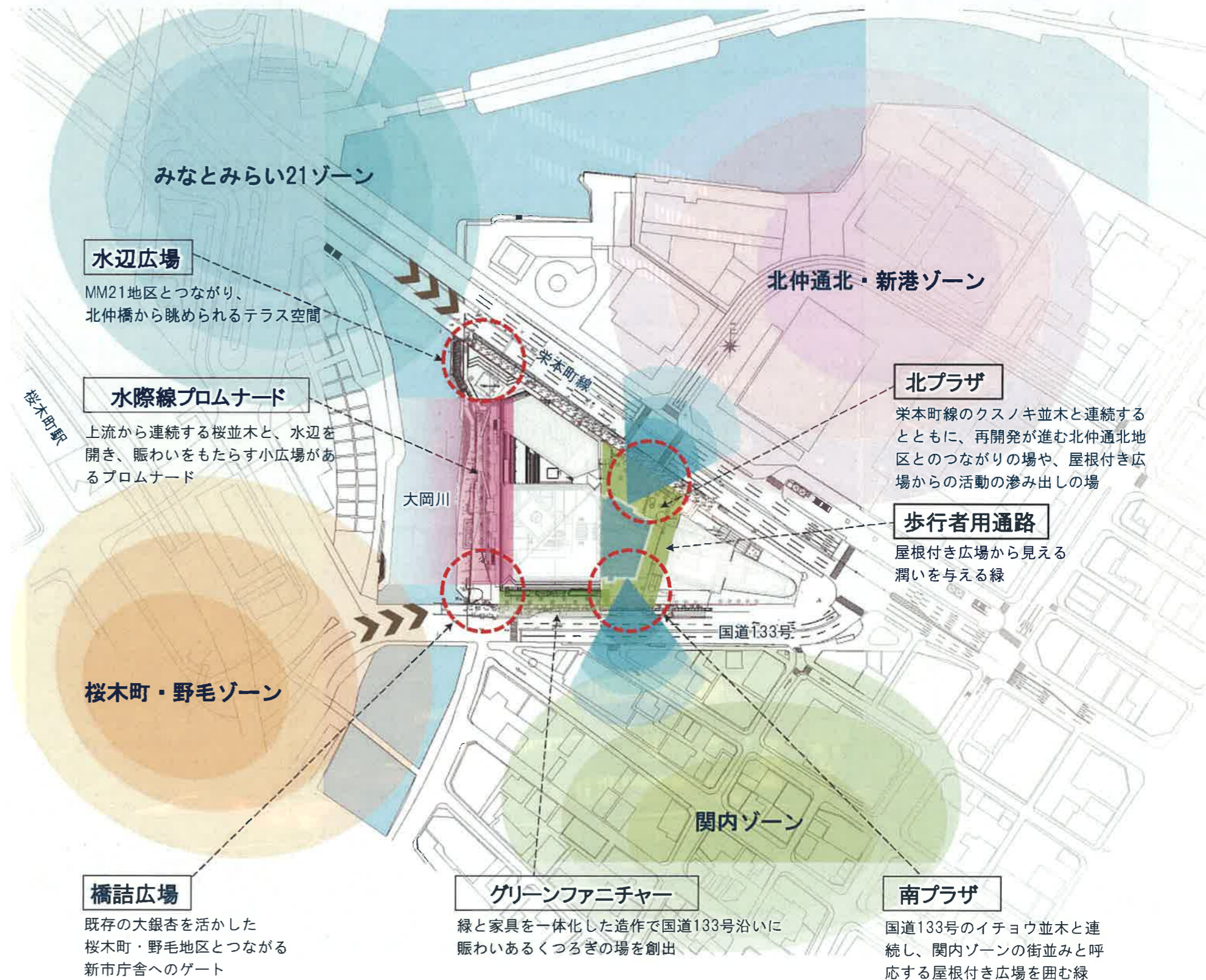
1. 緑の構造



このエリアの緑は、ウォーターフロントの軸線上に展開するA.海辺の緑と、大通公園から横浜公園を経て日本大通りへとつながるB.緑の軸線が構造をつくっているといえます。そして、縦系と横系のような街路樹によってこの二つの緑が紡がれることで、街が彩られています。その中で、本計画の敷地は、大岡川沿いの水辺に展開する①桜並木や、国道133号の②イチョウ並木、栄本町線の③クスノキ並木に面しており、街の結節点であるとともに、緑の結節点としても位置付けることができます。

2. 街の結節点としての風景づくり

新市庁舎のランドスケープは、横浜の代表的な街を紡ぐ緑の結節点として、他のエリアと接続する①桜並木や、②イチョウ並木、③クスノキ並木の特徴を取り込み、多様性のある表情をつくりだします。また、敷地の4つの角には広場を配置し、各エリアを受ける場として設えます。



水辺広場

MM21地区とつながり、北仲橋から眺められるテラス空間

水際線プロムナード

上流から連続する桜並木と、水辺を開き、賑わいをもたらす小広場があるプロムナード

北プラザ

栄本町線のクスノキ並木と連続するとともに、再開発が進む北仲通北地区とのつながりの場や、屋根付き広場からの活動のしみ出しの場

歩行者用通路

屋根付き広場から見える潤いを与える緑

桜木町・野毛ゾーン

橋詰広場

既存の大銀杏を活かした桜木町・野毛地区とつながる新市庁舎へのゲート

グリーンファニチャー

緑と家具を一体化した造作で国道133号沿いに賑わいあるくつろぎの場を創出

南プラザ

国道133号のイチョウ並木と連続し、関内ゾーンの街並みと呼応する屋根付き広場を囲む緑

方針

横浜の海は世界と結ぶ。開港の街として人やモノの往来を担ってきた横浜。
大海原を渡る船の羅針盤のように行先を指し示し、人と様々な目的を結ぶサインとします。

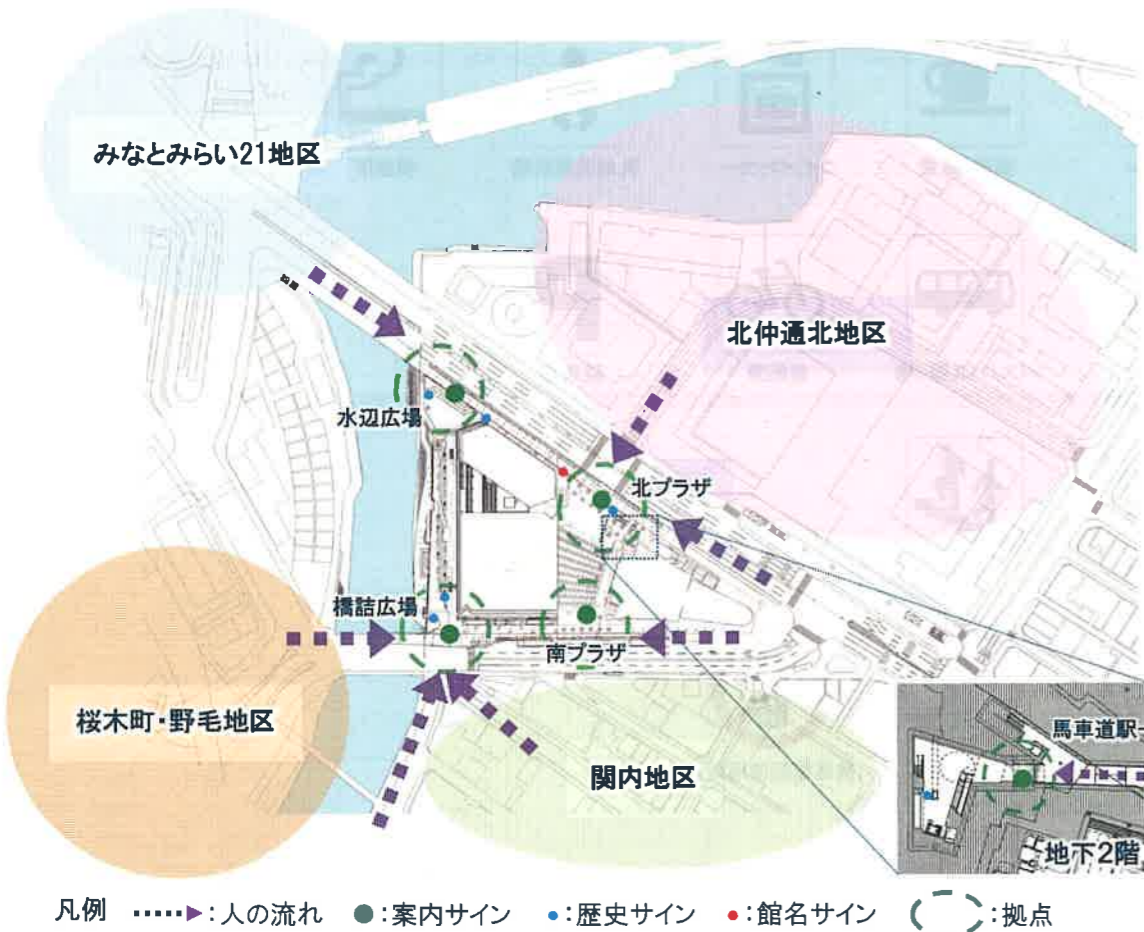
1. 人と街を結ぶ： 周辺環境と調和し各エリアを結ぶ街の結節点として、歩いて楽しめる街の魅力を高めるサイン
2. 人と建物を結ぶ： 商業・市民利用施設等が来庁者にわかりやすく、統一感を持たせた市庁舎として品位あるサイン
3. 人と人を結ぶ： 年齢や国籍、障害の有無に限らず、来訪者の往来が円滑になるサイン
4. 人と過去を結ぶ： この土地の歴史を知ること、市民が愛着や誇りが持てるサイン

横浜らしさの表現（デザインコード）

建築のデザインで表現されているシルクのような質感の品位ある市庁舎というイメージを踏襲し、市庁舎の基調色となっている「白系」を用いて、統一感を高めていきます。



1. 街の結節点にふさわしいサイン計画



「品位ある市庁舎」のイメージに基づき、大きな屋外広告物は想定していません。最小限の屋外広告物として、まず、各方面から来た人々を適切に導くため、敷地の角にある広場と地下2階の連絡通路に街区や施設の案内サインを設置します。また、出土した遺構と歴史を説明する歴史サイン等もあります。これらは、「白系」を基調色とすることで、周辺の様々な地区や建物のサインと調和するものとします。

2. 人と建物を結ぶ

- A. 配置計画
動線計画に則し、導入部には案内サイン、空間の分岐点には誘導サインを設け、入口から目的地までつながりをもったサインの配置計画とします
- B. 商業系サイン
低層部の店舗のサインは、店舗一覧などが一目でわかる案内板を設置します。各店舗入口の店名サインの本体は、すべて統一したスタイルとし、秩序と賑わいのバランスのとれたものとします。



3. 人と人を結ぶ

- A. ユニバーサルサイン
代表的なサインは、必要に応じて4カ国語表記として、文字だけではなく、ピクトグラムでの表記も併用します。また、高齢者や身体障害者への対応など、バリアフリーにも配慮したサインとします。
- B. 視認性に留意したわかりやすいサイン
誘導サインや、インフォメーション、トイレ案内等の視認性が必要とされるサインは、文字とピクトグラムの大きさや、表示板と文字の明度差に留意します。
- C. デジタルサイネージとの調整
固定する施設系の情報(サイン)と、変化する催し系の情報(デジタルサイネージ)は、個別に考えず、配置の検討や、フェイスデザイン、色彩の統一といった調整を図ります。



4. 人と過去を結ぶ

- A. 歴史サイン
調査により出土した遺構を説明するサインと、この地区の歴史について総合的に展示するサインを計画します。



- サイン計画では、わかりやすい言語表記、ピクトグラム表記を活用し、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わず利用できるようにします。
- 書体は視認性に優れた角ゴシック体とします。
- ピクトグラムは原則としてJIS案内用図記号を使用します。
- 横浜市公共サインガイドライン及び関内地区都市景観形成ガイドライン等に沿って計画します。

書体例

和文：角ゴシック体

横浜市庁

中国語：Sim Hei

横浜市政府机关

欧文：サンセリフ体

Yokohama City Hall

ハングル：Dotum

요코하마시 관청

色彩

- 1) 建築のデザインで表現されているシルクのような質感の品位ある市庁舎というイメージを踏襲し、統一感のある表現をします。
- 2) 地色と図色の明度差が少ない組み合わせは用いないこととします。
- 3) 白内障患者にとって極めて識別が困難な「青と黒」「黄と白」等の組み合わせは用いないこととします。



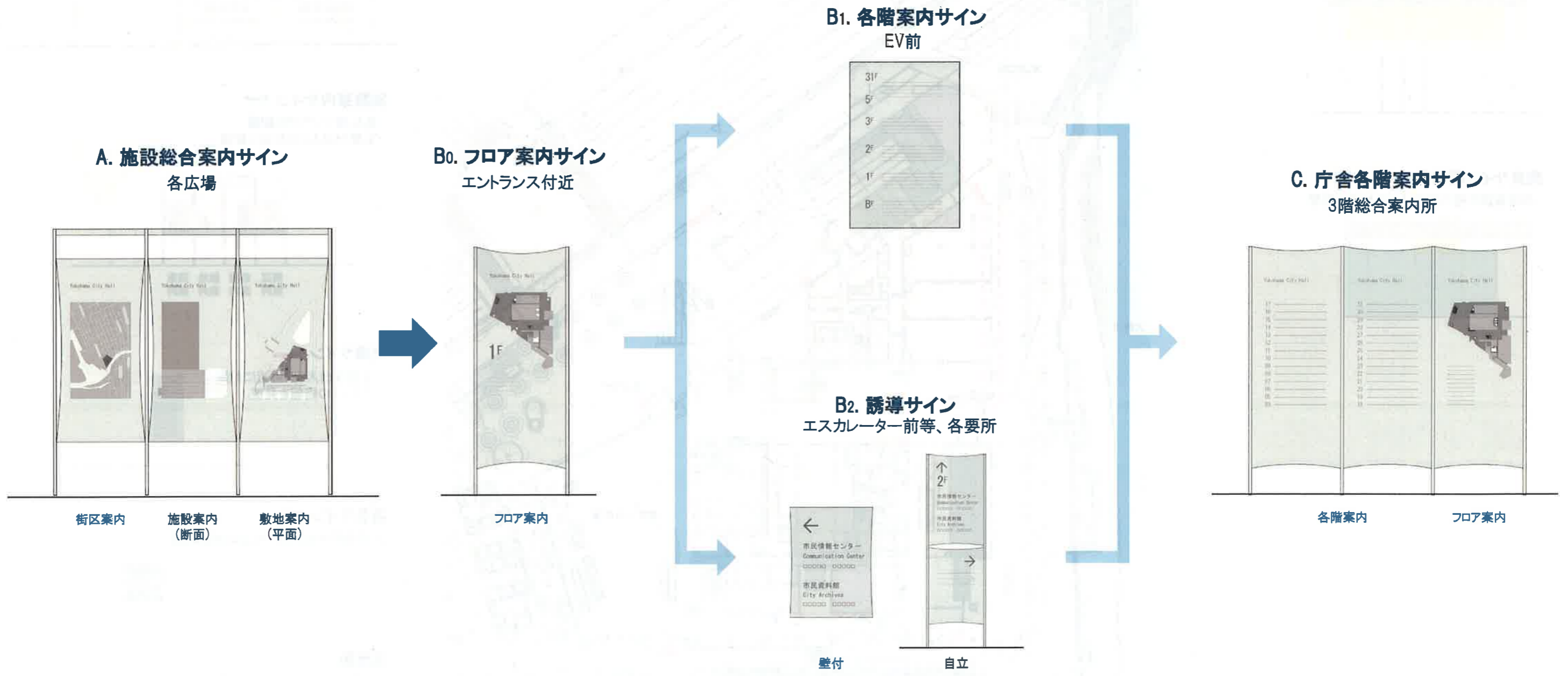
- 4) 色覚異常者に配慮し、「赤と緑」の組み合わせは用いないこととします。



ピクトグラム



まず、各広場や主要エントランス付近にある「施設総合案内サイン」で庁舎全体の構成とエントランスの位置を示し、次に、エントランス付近にある「フロア案内サイン」で現在位置と縦動線の位置を表し、要所にある「誘導サイン」や、EV前の「各階案内サイン」によって、3階の総合案内所まで誘導します。



3. 屋外広告物

低層部のサインは、機能が混在する“街のようなパブリックスペース”の考え方を基に、外構サインと内部サインは統一感と連続性のあるデザインとします。
 また、水際線プロムナードに面する商業施設の広告物は、建築デザインと一体的な質の高いものとし、パブリックスペースにふさわしい景観に調和したものとします。
 さらに、施設案内や、商業、掲示板等のサインと、縦動線に沿った特徴的な素材のフィーチャーウォールによって、多様性のある低層部を演出します。

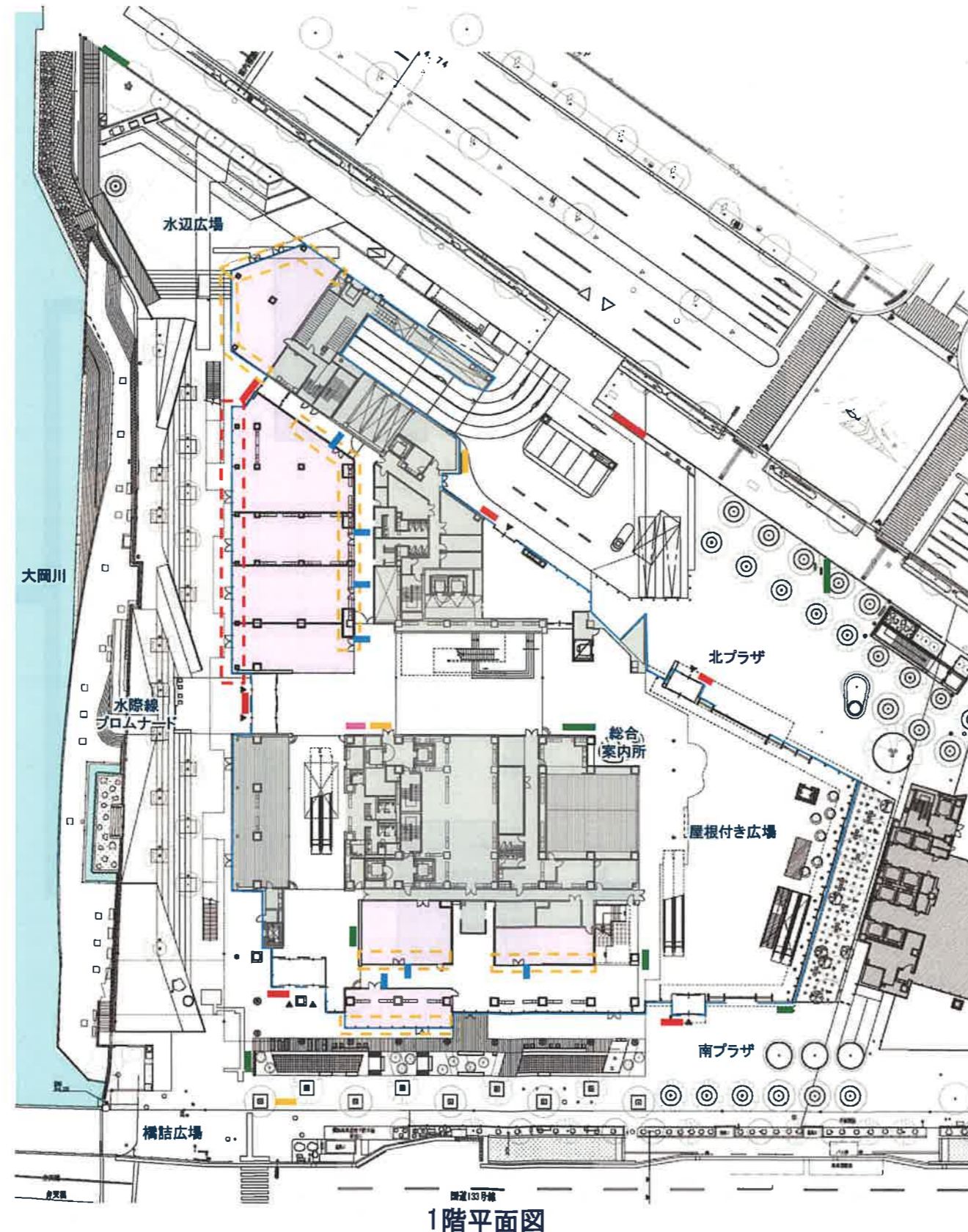
商業サイン幕板部

・商業施設の外部側出入口付近に配置



商業サイン欄間部

・商業施設の室内側出入口付近に配置



1階平面図

館名サイン

・各エントランスに壁面表示
 ・車寄せから見える位置に配置
 ・二元代表制を示す



施設案内サイン

・各広場やプラザに配置
 ・主要な出入口付近に配置



商業サイン

・主要な出入口付近に配置
 ・テナントの情報を発信



店名サイン

・店舗室内側出入口付近に突出配置



掲示板

・主要な出入口付近に配置
 ・来庁者へ情報発信



商業サイン幕板部



・商業施設の外部側出入口付近に配置



商業サイン欄間部



・商業施設の室内側出入口付近に配置



館名サイン



・各エントランスに壁面表示



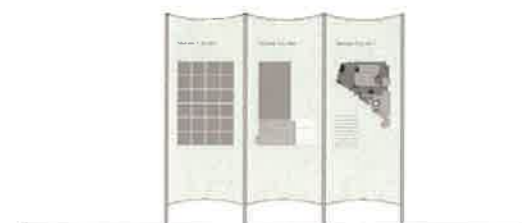
横浜市役所

Yokohama City Hall

施設案内サイン



・主要な出入口付近に配置

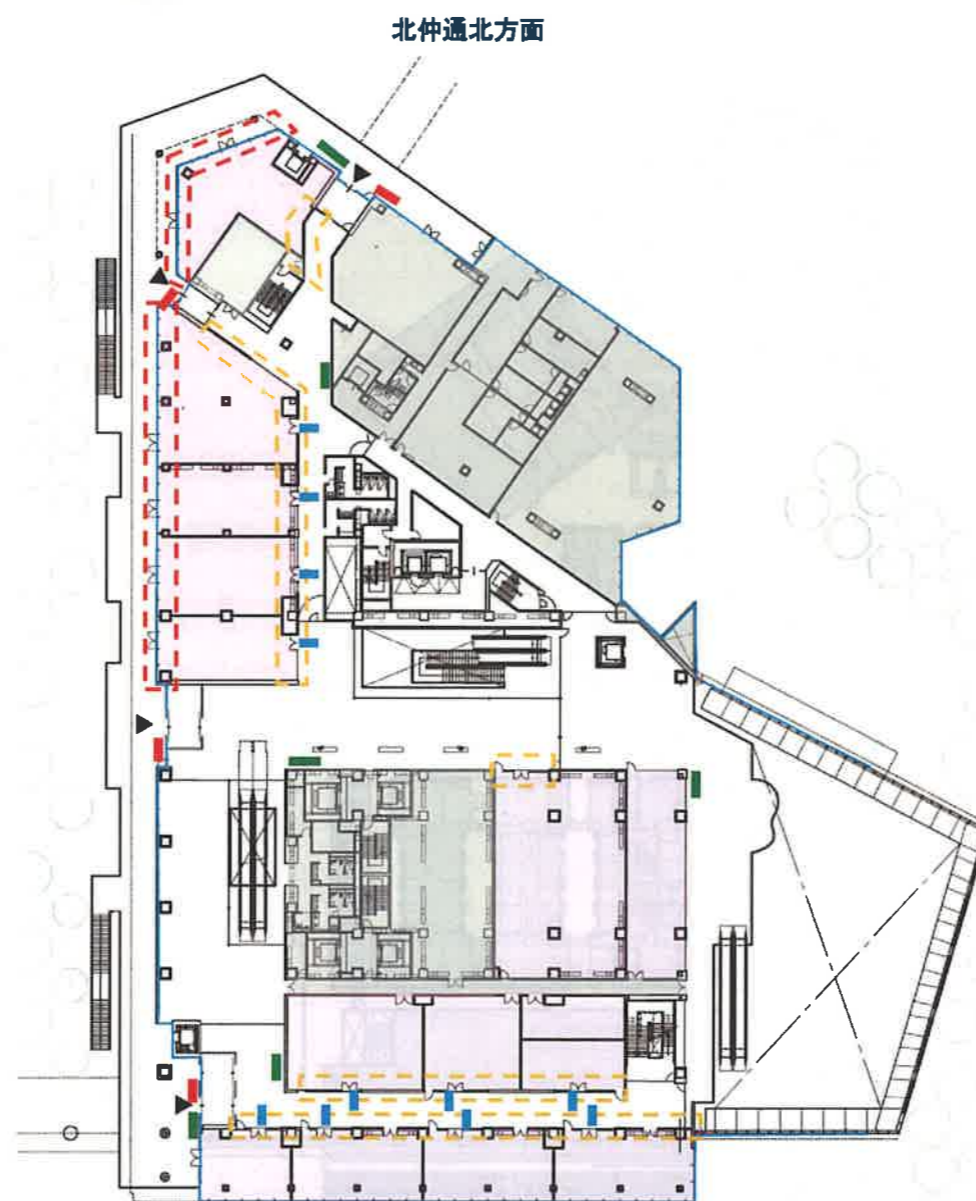


商業 各階 フloor
案内 案内 案内

店名サイン



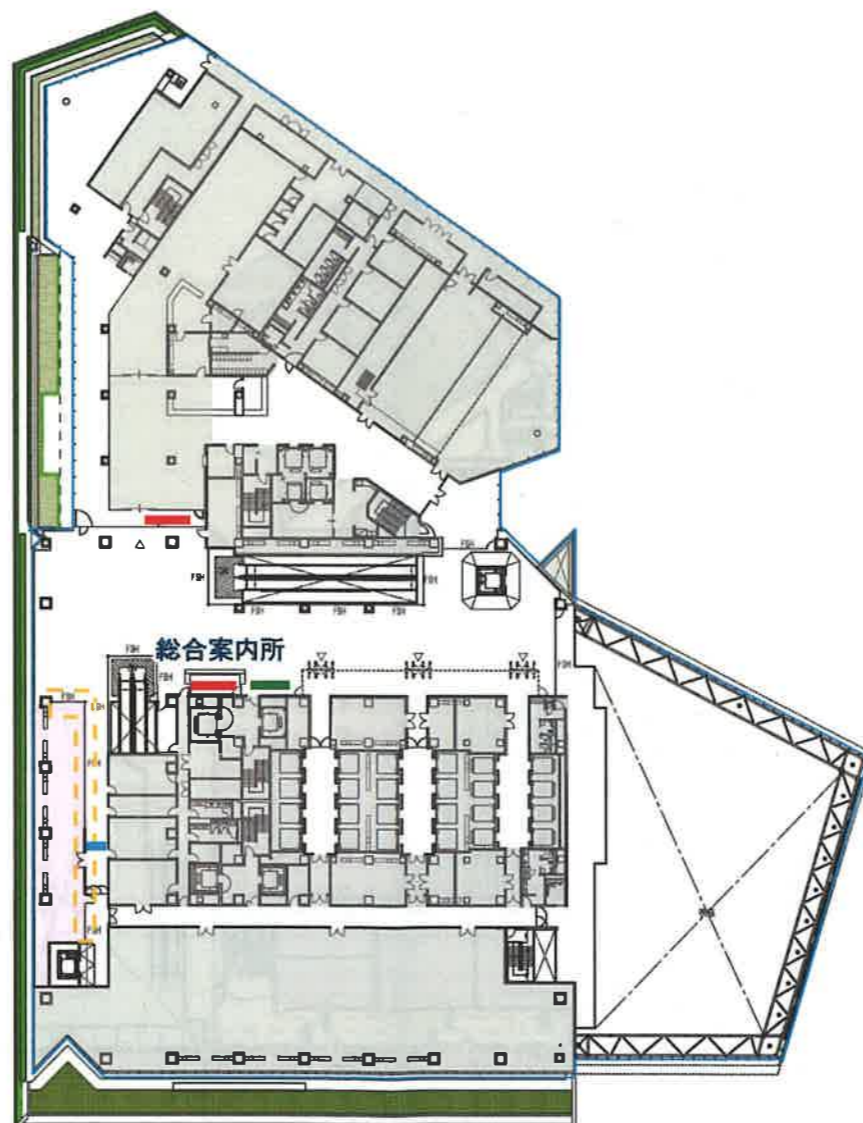
・店舗室内側出入口付近に突出配置



2階平面図

商業サイン欄間部

・商業施設の室内側出入口付近に配置



館名サイン

・各エントランスに配置

横浜市役所

Yokohama City Hall

横浜市会

Yokohama City Council

庁舎各階案内サイン

・各広場やプラザに配置
・主要な出入口付近に配置



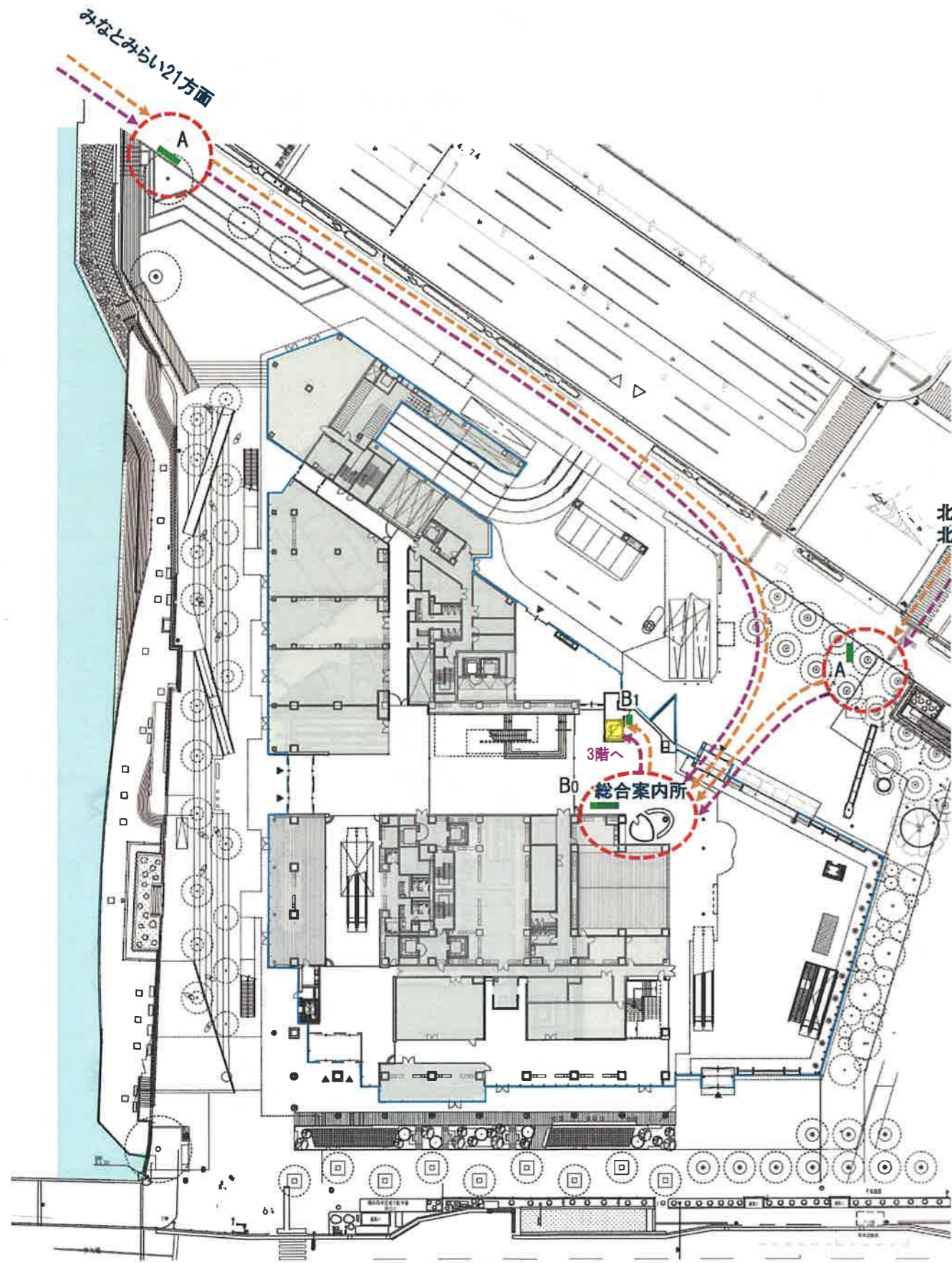
各階案内 フロア案内

店名サイン

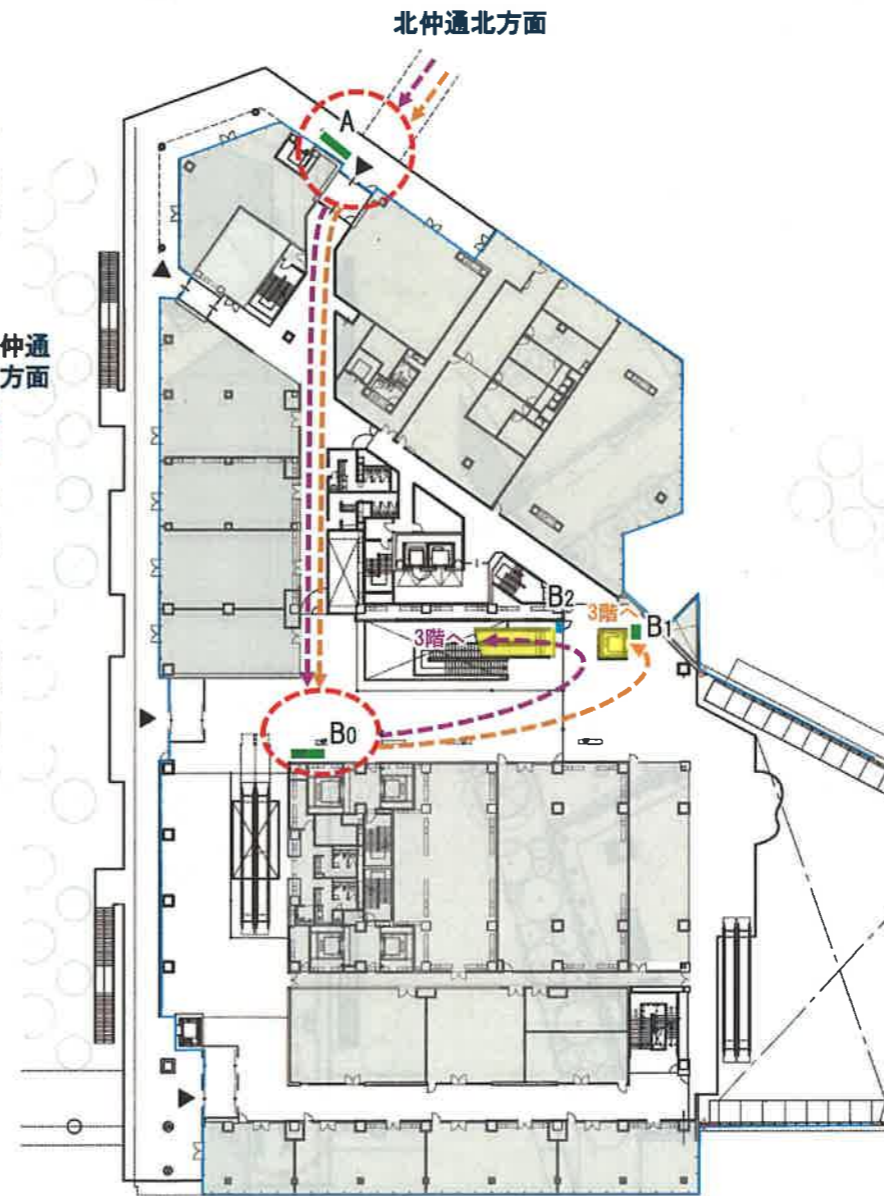
・店舗室内側出入口付近に突出配置



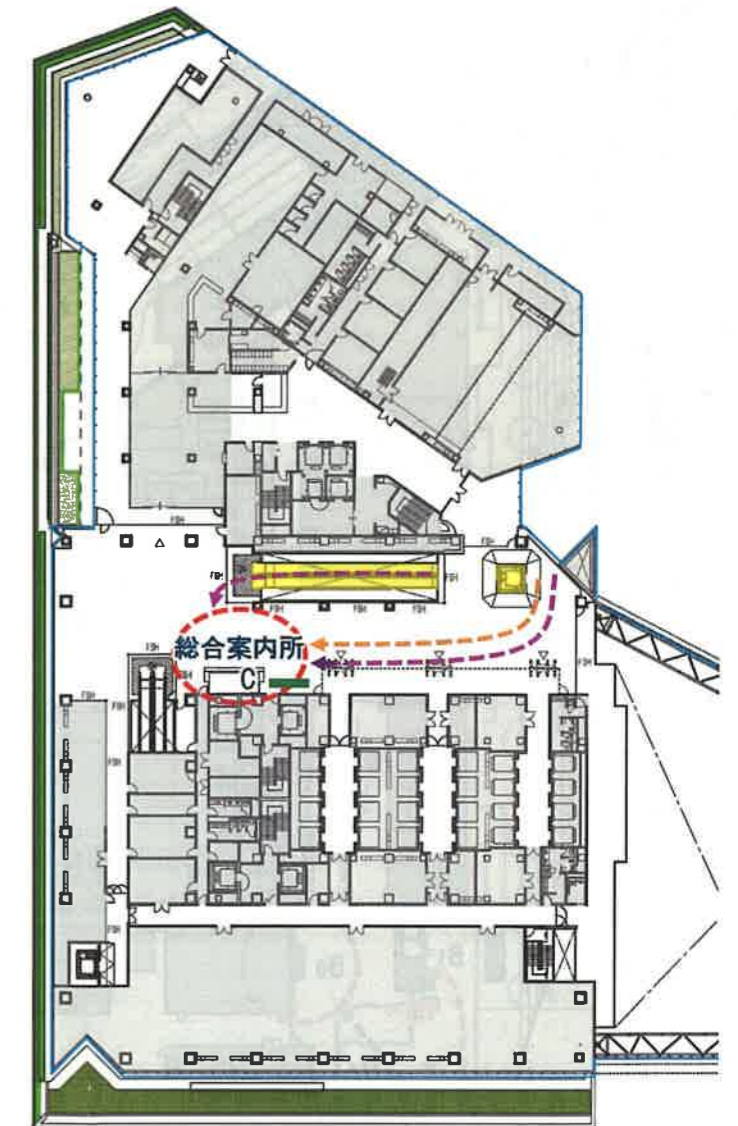
3階平面図



1階平面図



2階平面図



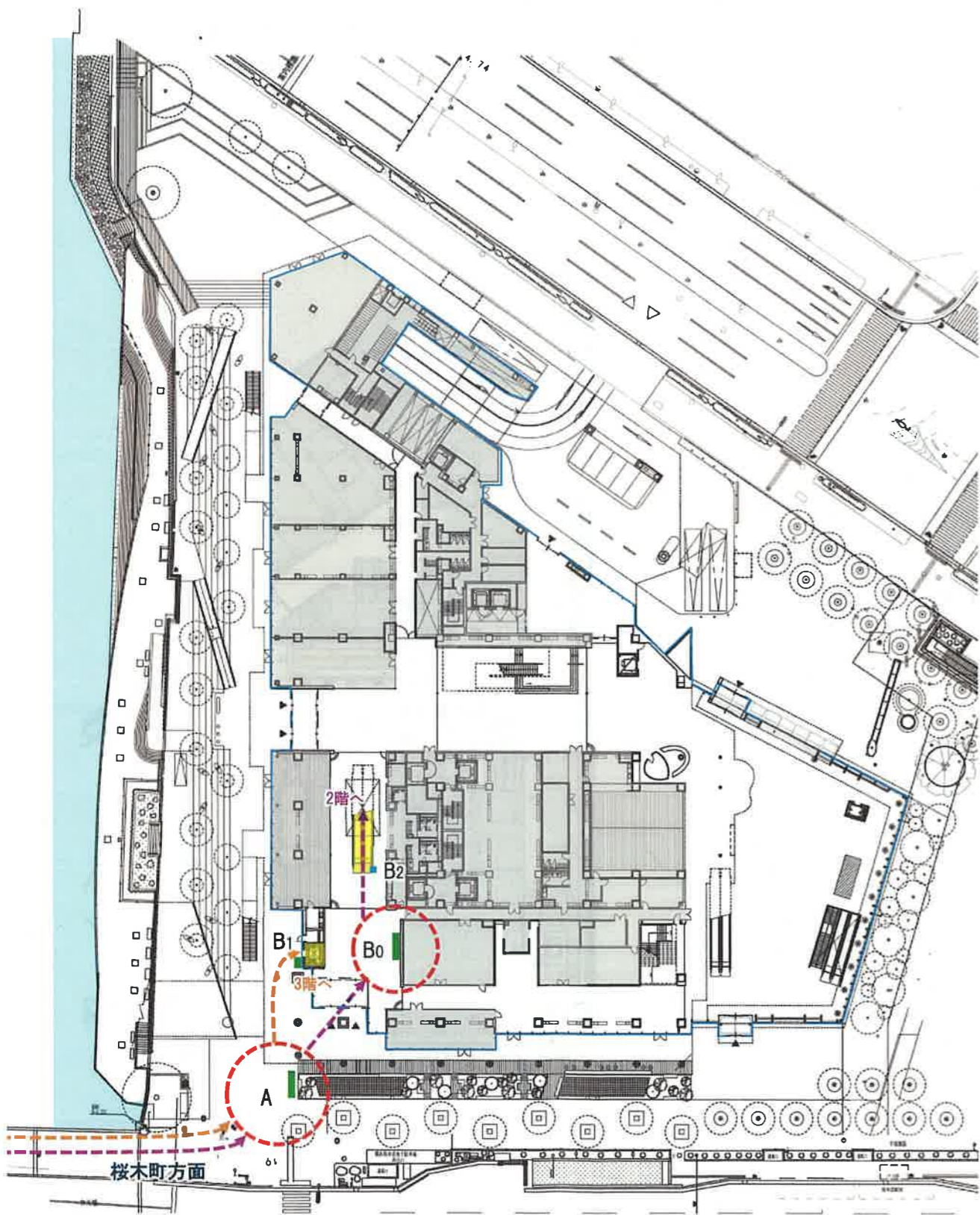
3階平面図

凡例

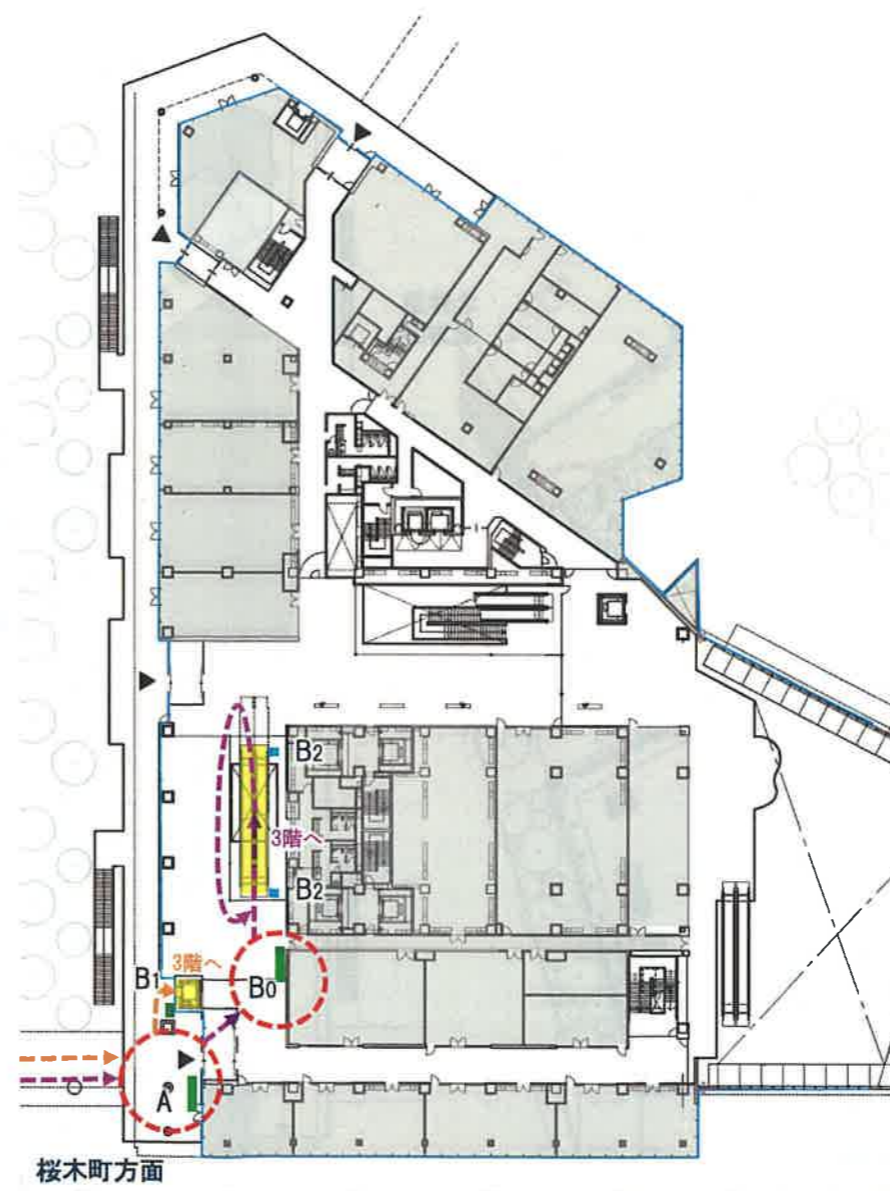
- 拠点
- 健常者の流れ
- 身障者の流れ
- 施設案内サイン
- 誘導サイン
- EV・ESC
- A 施設総合案内サイン
- B0 フロア案内サイン
- B1 各階案内サイン
- B2 誘導サイン
- C 庁舎各階案内サイン

凡例

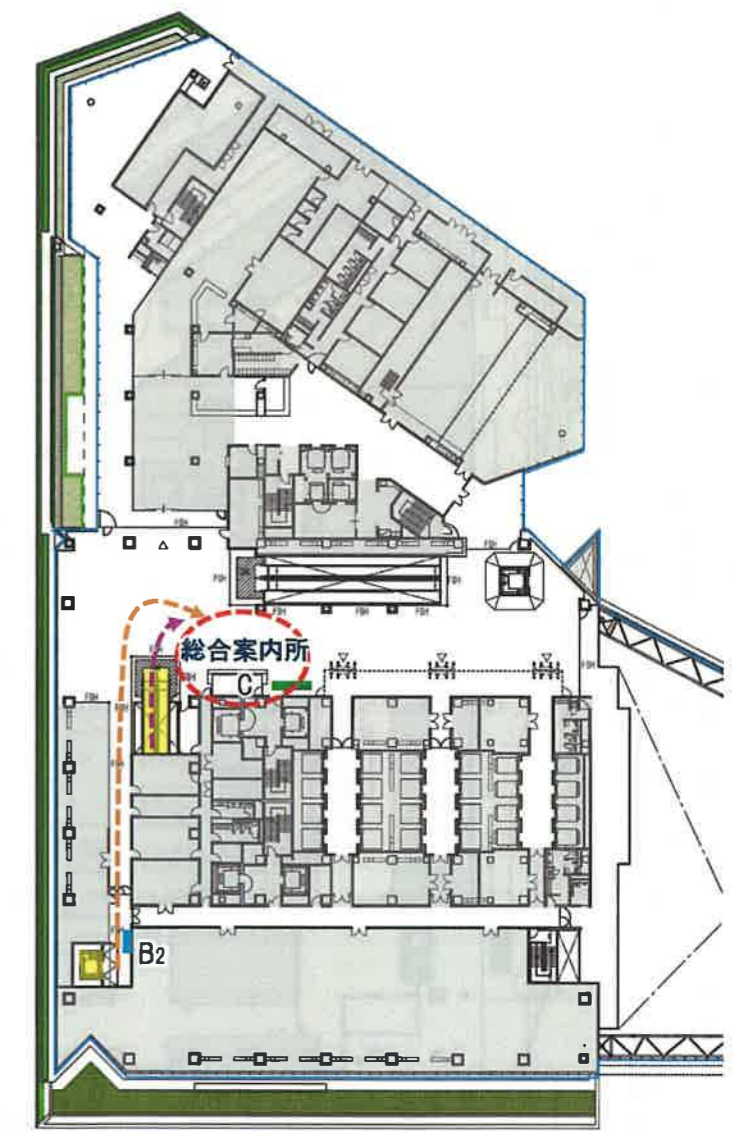
- ⬮ 拠点
- ➔ 健常者の流れ
- ➔ 身障者の流れ
- ➔ 施設案内サイン
- ➔ 誘導サイン
- EV・ESC
- A 施設総合案内サイン
- B0 フロア案内サイン
- B1 各階案内サイン
- B2 誘導サイン
- C 庁舎各階案内サイン



1階平面図



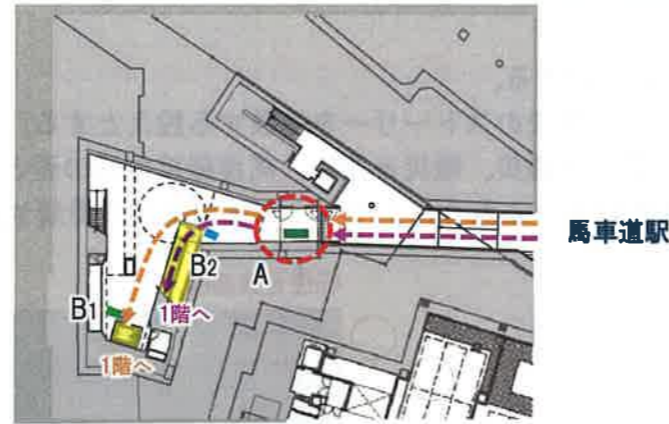
2階平面図



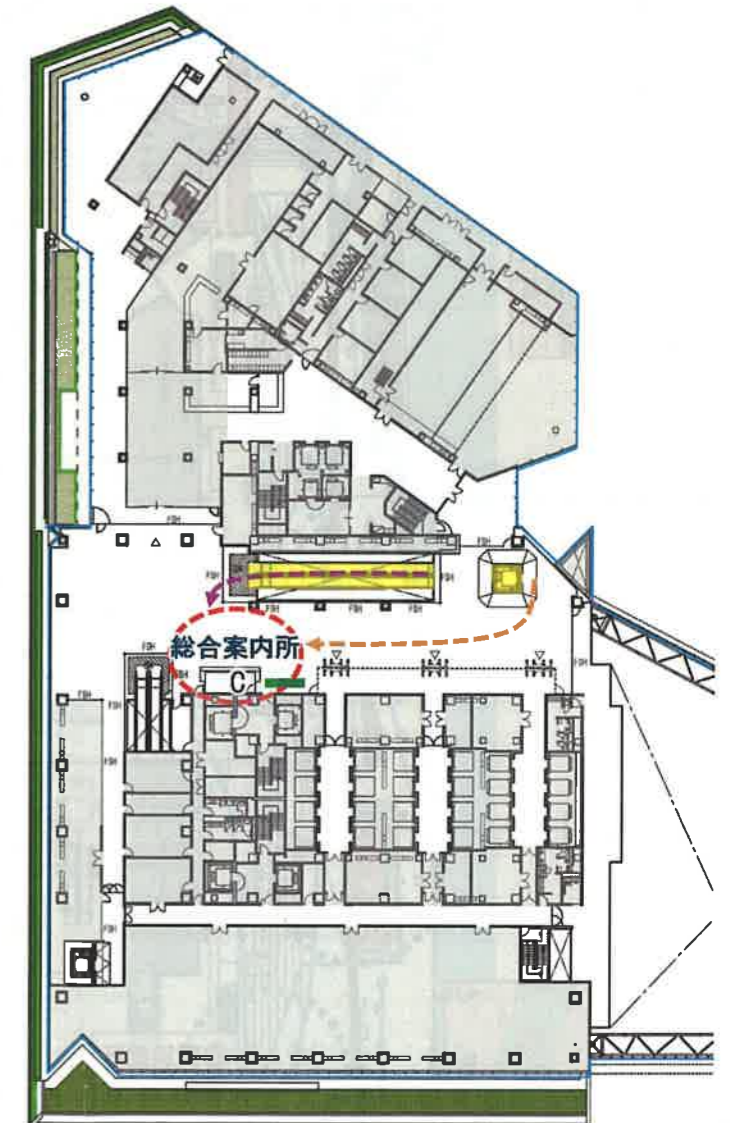
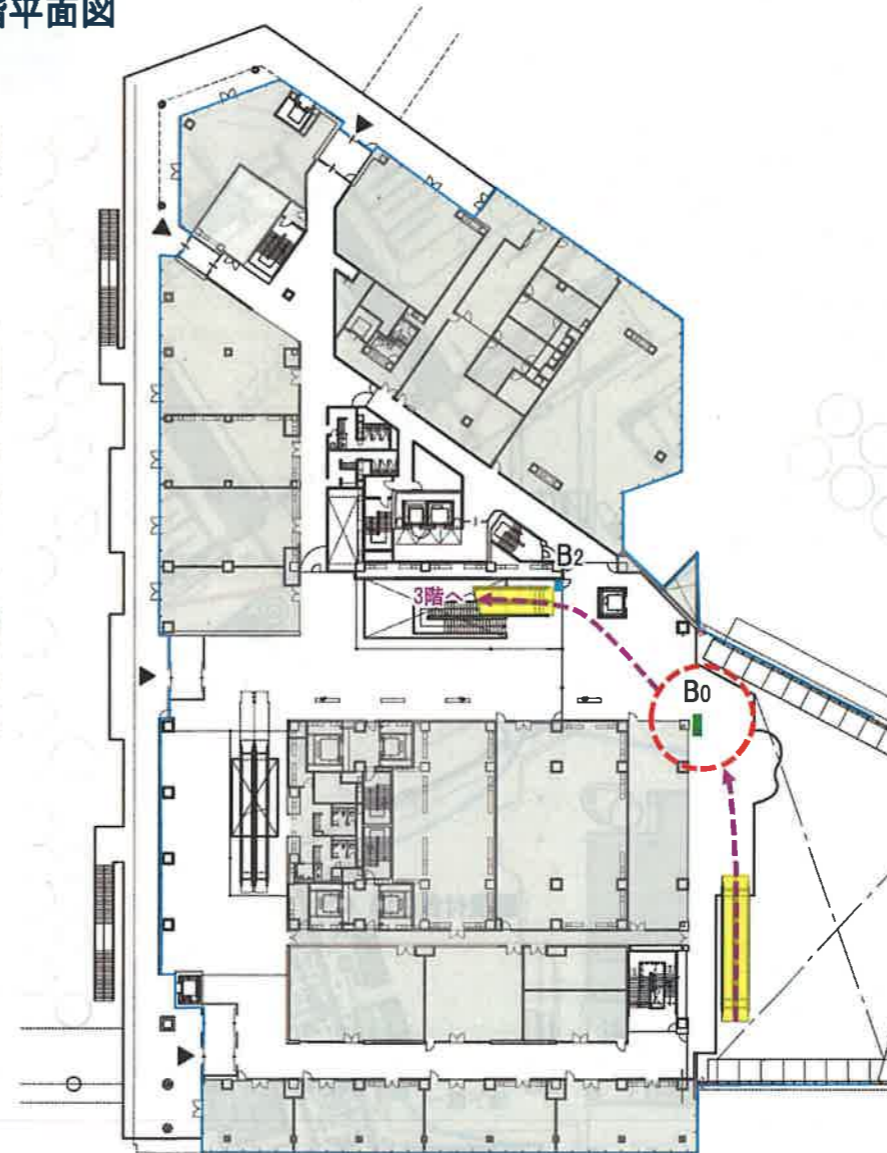
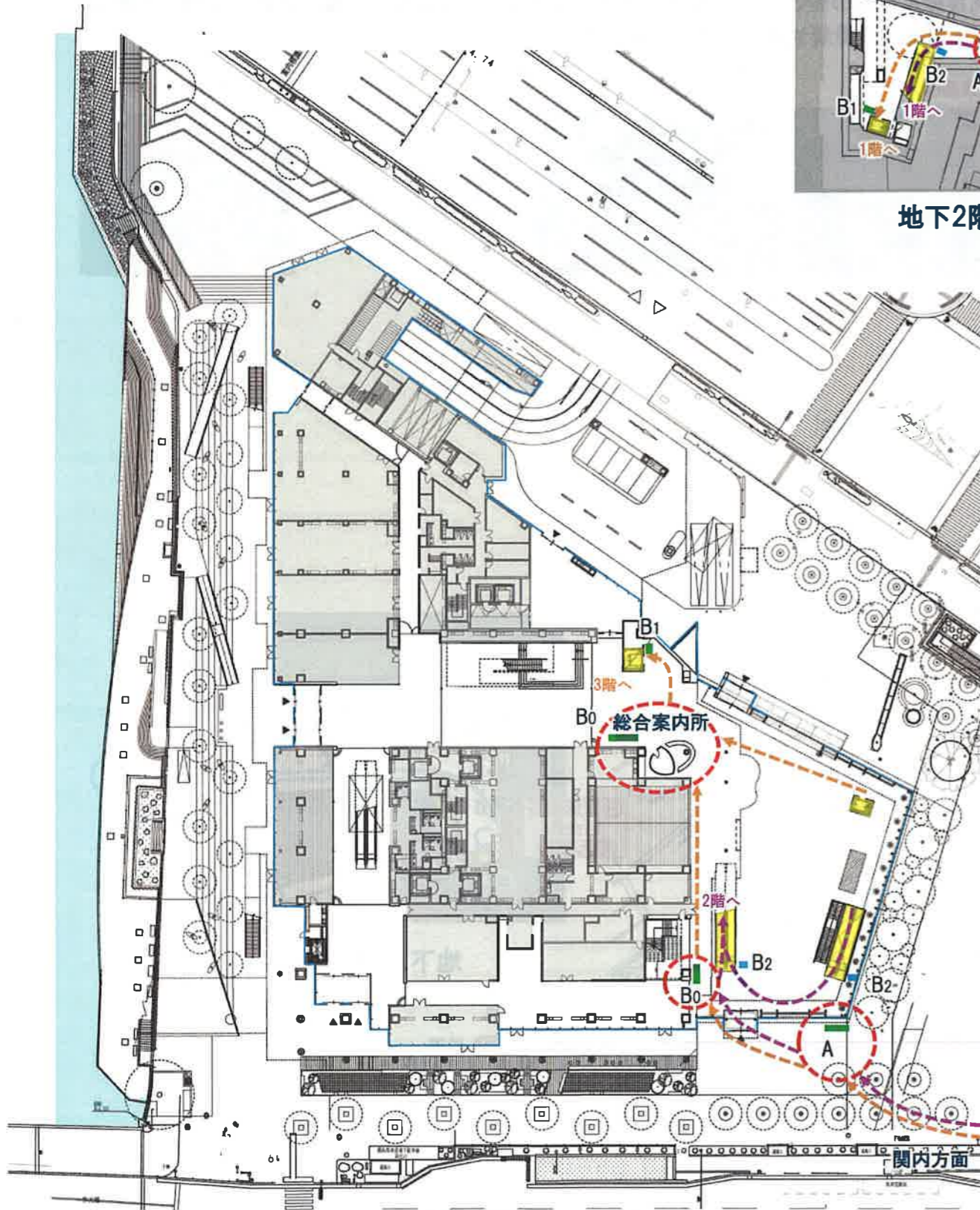
3階平面図

凡例

- 拠点
- 健常者の流れ
- 身障者の流れ
- 施設案内サイン
- 誘導サイン
- EV・ESC
- A 施設総合案内サイン
- B0 フロア案内サイン
- B1 各階案内サイン
- B2 誘導サイン
- C 庁舎各階案内サイン



地下2階平面図

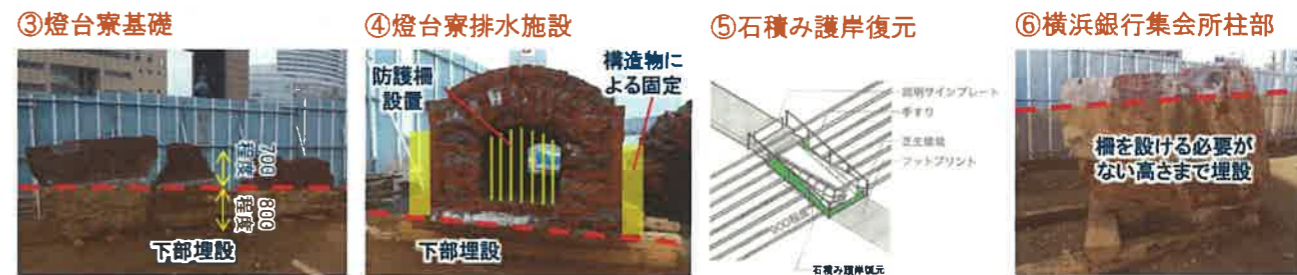
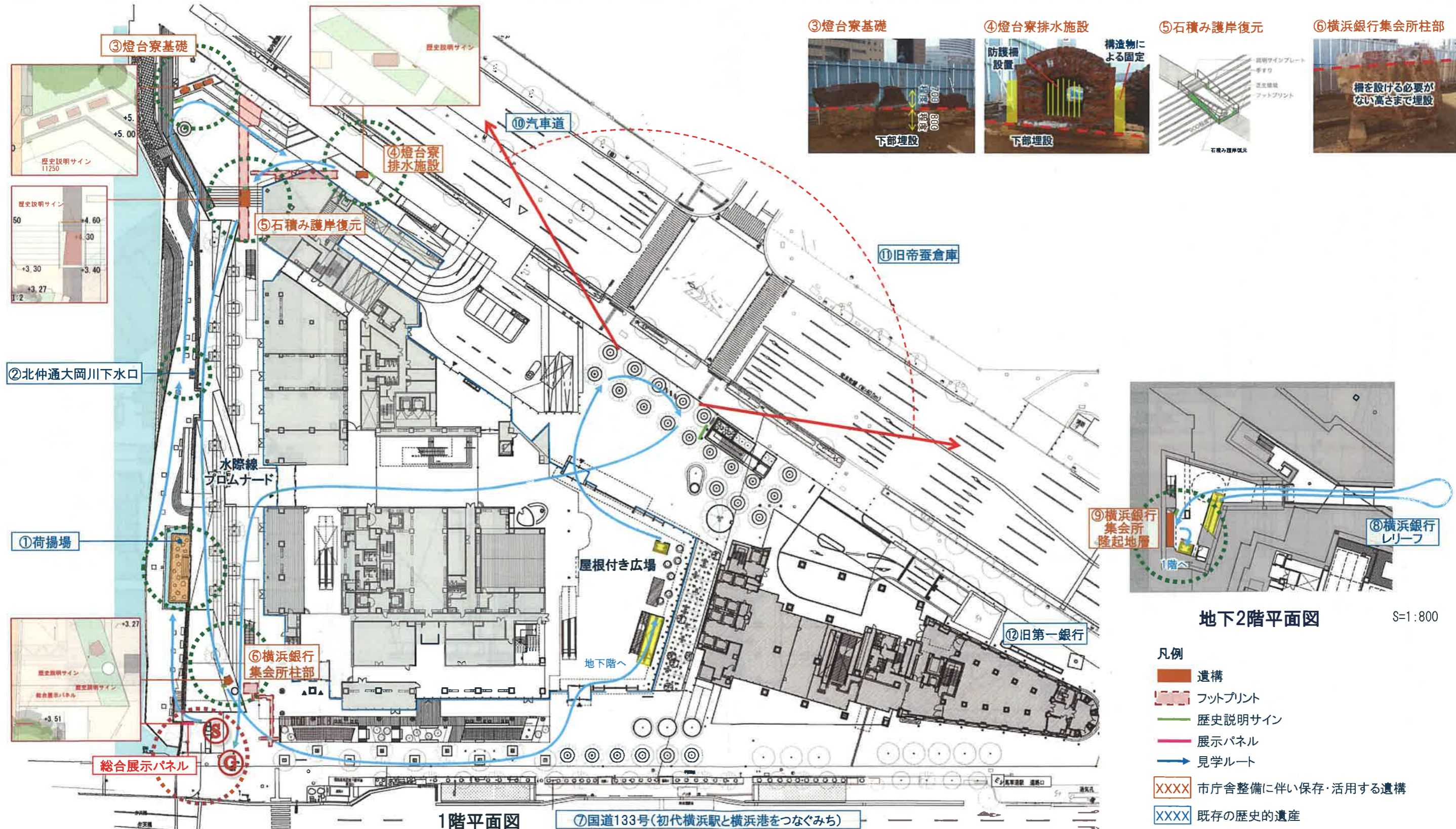


方針

過去を50年100年と遡ることで、50年後100年後に持続する都市の未来を考えることができる場とする。

低層部デザインコンセプトの『1. 歩いてたのしめる重ねた街』の考え方のもとに、回遊性の中で歴史のストーリーを体験する設えとする。

2階は「横浜の過去・現在・未来と出会うフロア」と位置づける。1階と地下階には、黒船、関東大震災、戦災と接收、高度経済成長の歪といった負のイメージをプラスに変えてきた横浜の歴史を物語る遺構を散りばめて展示する。橋詰広場には、当敷地の特徴（遺構含む）を示す総合展示パネルを設ける。これらによって、市民が横浜に愛着や誇りを抱く一助とする。



①荷揚場



明治初期英国人技師プラントンの設計により整備された石積護岸における荷揚場の階段。

②北仲通大岡川下水口



明治14年から着手された、関内石造下水の排水口と判断されるもの。

③燈台寮基礎



明治3年ごろに、燈台寮の試験場として建設されたレンガ造の建物基礎の一部が出土したもの。

④燈台寮排水施設



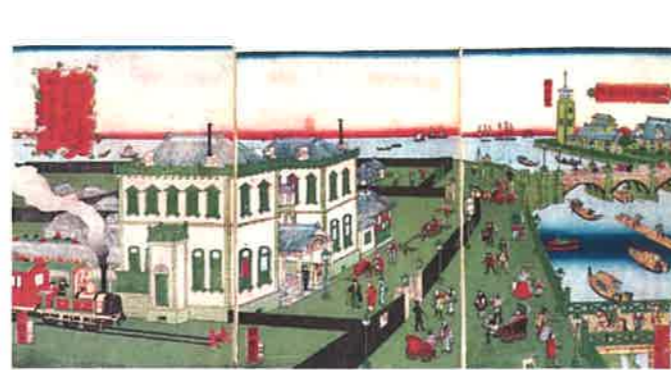
明治3年ごろに、燈台寮の試験場として建設されたレンガ造の建物基礎下部に敷設されていた排水施設の一部が出土したもの。

⑧横浜銀行レリーフ



馬車道駅に展示されている横浜銀行の本社屋のレリーフ。

⑦国道133号



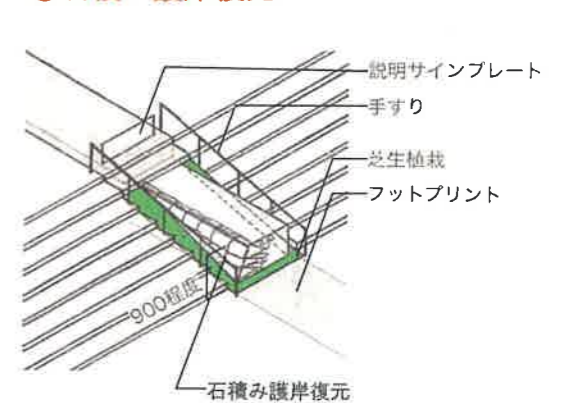
初代横浜駅と横浜港をつなぐみち

⑥横浜銀行集会所柱部



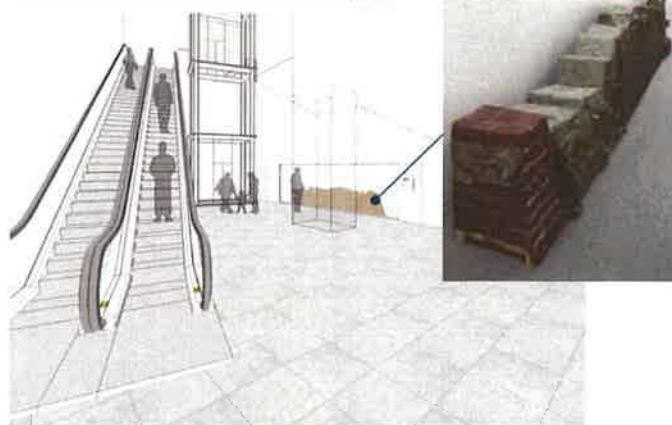
現在の横浜銀行協会・旧横浜銀行集会所の前身にあたる建物で、明治38年に建設され、関東大震災で被災・倒壊したものの柱部。

⑤石積み護岸復元



現在の護岸（明治期）の東側から出土。一部の石積みは取り外され、周辺の建物基礎などに利用されていた。

⑨横浜銀行集会所隆起地層



横浜銀行集会所の基礎と関東大震災において隆起した地層部分を剥ぎ取ったもの。

⑩汽車道



明治44年開通の旧横浜駅と新港埠頭を結ぶ臨港線の廃線跡を利用した歩行者空間。

⑪旧帝蚕倉庫



建築家・遠藤於菟の設計により関東大震災後の昭和元年に建てられた生糸絹物専用倉庫

⑫旧第一銀行



昭和4年に建てられ、平成15年に横浜アイランドタワーの完成とともに一部移築復元された第一銀行横浜支店。